

### 三重県で一番低い山 「西山」 登頂記

平成 29 年 4 月 19 日 天気=晴

我が家から徒歩数分の所にコミュニティバスの停留所ができたので使ってみることにした。とは言っても一日に 5, 6 本しか走っていないので、旨く使うことができるかどうかかわからない。

7 時 49 分発のバスには誰も乗っていなかったばかりか、八千代台駅まで誰も乗っては来なかった。

このバスを選んだ理由はもうひとつある。15 分ほどの待ち合わせでモーニングライナーに乗れるので、通勤ラッシュの時間帯でも楽に都心へ出ることが出来る。

8 時 27 分発、日暮里着 9 時 09 分、東京駅には 9 時 30 分頃に到着。待合室でコーヒーを一杯飲むとちょうど良い時間になる。

10 時 10 分発のぞみ 23 号、まわりは出張らしいサラリーマンばかり。

富士山を眺めることを目的に E 席を確保したが、雲がちの空であり意味はなかった。

目指す伊勢中川は、三重県のほぼ中央部にあり伊勢湾から少し中に入った所にある。鉄道駅で言えば津と松阪のほぼ中間地点になり、名古屋から来た近鉄の電車が山田線と大阪線に分れるのがこの駅。

三重県で一番低い山「西山」は、この伊勢中川駅から東へ 1Km 程の所にある。

西山というからには東山があってもおかしくないと思って地図を見回したが見当たらない。また、「何の西にある山」なのだろうかという疑問も感じたが・・・伊勢湾に注ぐ雲出川の河口から見ると真西に見える突起がこの山なので、昔は船人が目印にしていた山だったということなのだろうか。勝手な想像も旅の楽しみのひとつだ。

名古屋 11 時 49 分着、近鉄名古屋駅に移動してコインロッカーに荷物を預けて昼食を購入。賢島行の特急に乗ろうと思っていたが、発車した直後だったので駅員に尋ねたら、次に出る急行を勧められた。

12 時 21 分発五十鈴川行急行、サンドイッチの昼食を食べている内に発車。

伊勢中川 13 時 38 分着。モダンな駅舎と新しい家並み、しかし町には人影は疎ら。地図を見ていると、この

辺りには「松阪市嬉野 X X 町」という地名が目立つ。昭和 30 年に近隣の村が合併して嬉野町が生まれた。その昔、倭姫命が阿坂の賊徒を平定した時に「うれし」と喜んだという伝承がもととなり町名が付けられたとのこと。平成 17 年に松阪市と合併したことで嬉野町は消滅したが、「嬉野 X X 町」という地名で残ることになったという経緯のようだ。

薄着になって、カメラを出して身支度を整え、13 時 46 分に出発。日差しもあり歩くと汗ばんでくるような温かさ。



住宅街をジグザグに抜けて県道 413 号線に出ると、目的地（西山）が右前方の視界に入ってきた。

三重県農業研究所の敷地に入ると左手の植え込みに「西山古墳」と言う立派な看板が建っていた。四世紀前半に造られたものと想定される前方後方墳で全長 43m・・・。

駐車場の中を東に進むと山に吸い込まれるような一筋の道が見えてきた。やがて椿の花が落ちている緩い傾斜の階段になり、階段が終ると中段の平坦地に出た。更に緩やかに登って行くと四阿が建つ山頂に到着、14 時 14 分。三等三角点がある山頂は海拔 30.6m、草をきれいに刈った禿げ山になっているが雑木林の中で眺望は全くない。

東側の方墳部へ足を運ぶと、木々の隙間から水田が広がる下界の景色が窺えた。広がる水田の中に、恐らく

古墳だろうと思われる小さな起伏がもう一つ目に入ってきた。

西側の方墳へも足を運んだあと駐車場に下山、14時35分。農業研究所の中の芝生の上で暖かな日差しを受けて小休止のあと往路を戻った。

伊勢中川駅に15時06分に帰着。お店が一軒もないので電車を待つ間の身の処し方にも困るような駅前広場は長くは居られない。15時26分発の急行で名古屋へ。

以上

